

平成7年度演習林年報

<https://doi.org/10.15017/18589>

出版情報：年報（九州大学農学部演習林年報）. 1995, 1997-02-28. Research Institution of University Forests, Faculty of Agriculture, Kyushu University

バージョン：

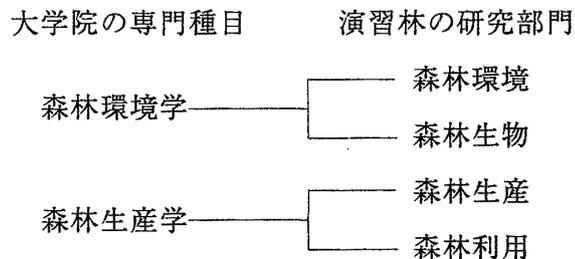
権利関係：

大学院教育を担う演習林

大学演習林は、林学関連の学部教育施設として位置づけられていますが、これには2つの顔があります。教育・研究の対象または素材としての森林群（これを九大演習林では「大型野外実験施設」と呼んでいます）という側面と、教育・研究及び演習林管理の主体としての教官及び技官等の人的組織という側面です。九大演習林では14名の教官と30余名の技官・事務官等が北海道演習林、宮崎演習林及び演習林本部（福岡演習林を含む）において森林の管理と教育・研究に従事していますが、今後はこれに加えて森林科学の分野における大学院教育の分担が重要な課題となってくると考えられます。

これまで演習林では、教官が北海道、宮崎及び粕屋の各地方演習林に分散配置され、継続的な教育の保証という点に若干の問題があり、また大学院生の定員がないこともあって、大学院生の受け入れには消極的でした。しかし、1993年度に演習林本部を粕屋地方演習林に移転、統合した結果、本部地区に10名の教官が集中することになり、教育体制が大幅に整備されましたので、1997年度から本格的に大学院生を受け入れることになりました。

演習林教官が分担する大学院の教育分野は、農学研究科林業学専攻の「森林環境学」と「森林生産学」の2専門種目です。周知のように、演習林では教官の研究組織として4研究部門を設け、全教官がそのいずれかに所属していますが、これらの研究部門と大学院の専門種目との関係は次のとおりです。



現在、1998年度からの大学院重点化へ向けた取り組みが進められていますが、演習林ではこれらの専門種目を「流域環境制御学」と「森林生産制御学」とに再編し、協力専門分野という形で大学院教育に参加する方向を検討しています。

多様な森林研究のフィールドとして常時利用できるように森林群を整備するとともに、森林科学に関する大学院教育の活力に満ちた拠点の一つに発展させたいと考えているところです。

1997年1月

研究部長 堺 正紘